

中等科・高等科

探求

高野慎太郎 鈴木雄紀 菅野広樹

自由学園では、生涯にわたる探求への道の入口として、探求の時間を設定している。毎週、土曜日午前中の2023年度は2～3時間を探求の時間としている。中・高の教職員だけでなく、卒業生、最高学部教員、他大学教員、株式会社トモノカイの大学生による学習サポーターと連携しながら、生徒の探求の支援を行っている。毎年、更新されつつある探求の実践について、報告する。

2023年度は、これまで行ってきた探求の時間のプログラムを全面的に再検討し、「自己探求」、「テーマ探求」、「自由探求」の3コースへの再編を行った(過去の取り組みについては過去の年報参照)。

「自己探求」は、主に①探求へのモチベーションがわからない生徒など、基礎的支援が必要な生徒、及び、②探求モチベーションはあるがきっかけを見いだせない生徒、を対象とするプログラムである。①の生徒に対しては、美術館見学や映画鑑賞、ゲスト講師との対話を始めとした啓発的経験を中心にアプローチし、意欲の喚起を行っている。②の生徒に対しては、個人面談を中心としながら、伴走型の支援を行い、テーマ探求や自己探求へと進むための支援を行っている。

「テーマ探求」は、かつての学業報告会の形式を援用したもので、教員がテーマを提示し、そのテーマのもとで探求を行うものである。これは、探求へのモチベーションはあるが探求の方法論が不足しているために困難を抱えている生徒を対象として設定したものである。テーマ探求においては教員の主体性が維持されるため、自己探求からこちらへ移動してきた生徒も安心してプログラムに参加することができるほか、探求指導において主体性を発揮したい教員を充てることによって、以前からあったそうした教員のニーズを満たすこともできている。

「自由探求」は、自分で計画を立てて探求を進めていくプログラムである。教員は、専門家とのつなぎや、進捗管理を行う。これまでの本学の探求プログラムは、主として自由探求に照準してきた。これは、大正自由教育の流れやデュイ流の探求観をふまえての判断であったが、他方で、無気力者への対応や、主体性を維持した形で探求指導を進めたい教員のニーズなど、対応すべき課題もみられていた。

「自己探求」「テーマ探求」の開設を通して、こうした課題に対応する解決策を提示することが出来た。

【新聞報道など】

「高校生に深田晃司監督がメディアリテラシーの特別授業」
毎日新聞オンライン 2023年10月19日

「自由学園で特別授業20人以上の参加者が熱心に聴講」
文化通信 2023年10月7日

「探求」学習は生涯学習につながる入口ーテーマを見つける過程が「探求」ー
全私学新聞 2023年9月13日

「探求で活用すると面白いー自由学園の生徒が生成AIを体験」
教育新聞オンライン 2023年7月3日

【見学来校】

上越教育大学(2023年11月)